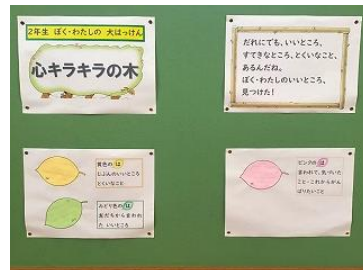




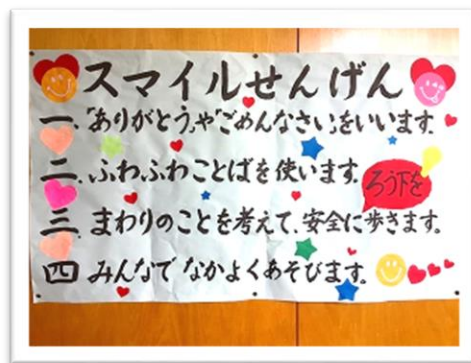
言葉の力

6月22日に「いじめ根絶集会」を行いました。各学年から、今月の取り組みを紹介してもらいました。各学年からの発表を聞いて感じたことは、「言葉を大切にしたい」という思いです。ふわふわ言葉やチクチク言葉と言われますが、誰しも心の中に刺さっている言葉というものがあるのではないのでしょうか。子どもたちの発表を聞いた後に、次のような話をしました。



・・・私は中学2年の時に、ある病気になって額に白い斑点ができました。ちょうどそれが魚のうろこのように見えたので、周りから「おーい、うろこ」と言われるようになりました。それがとても嫌でした。でも、ある時、うろこと言う人と言わない人がいること、そして人の嫌がることをしているときのその人の顔は、とても醜いということに気づきました。人の嫌がることをしているときの顔（醜い顔）は鏡にはうつりません。なぜなら鏡の前ではいい顔しかしかないからです。・・・醜い顔より、応援したり励ましたりするときのような素敵な顔がどんどん増えるといいですね。

40年以上も前に経験したことですが、今でも覚えています。文科省の生徒指導提要によると、いじめの加害者の心の深層には、不安や葛藤、劣等感、欲求不満などが潜んでいることが少なくないと述べられています。また、「自分が人の嫌がることを言っている、している」という自覚がない場合も多いとのこと。おそらく当時の私の級友たちも同じ感覚だったのでしょう。今となっては覚えていないでしょうが、私の中には残っています。ただ、そのおかげで「人の嫌がることを言って醜い顔になるのはよそう」という思いを持つことができました。言葉の持つ力はすごいです。今年度は、集会を全員が集まる形で進めることができます。他の学年の発表を直に見聞きすることができるのは、子どもたちにとっていい経験になると思っています。



子どもたちの感想です。

○1つ1つの学年が、色々なことを考えて発表していて、凄くたった一つの言葉で誰かを傷つけているんだなぁと改めて思った。自分は言われても嫌じゃない言葉は、相手にとってすごく嫌な言葉かもしれないから言葉選びって大事だなと思った。

○これから一人である人に話しかけたりしたいし、これからも、今いる友達ともっと良い関係が作れるようにがんばりたいです。そして、クラスの中に、仲間外しの無い関係が作れるようにがんばりたいです。